DOYU IWATE

8 Aug. 9 Sep.

2023 Vol. 171
同友いわて
合併号

「70年続く会社の3代目の経営理念」
～変わらないもの・変わっていくもの～

互光商事株式会社　代表取締役　玉川　康介　氏

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

岩手県中小企業家同友会｜http://www.iwate.doyu.jp/｜

〈シリーズ〉

活き生き企業訪問記

「70年続く会社の3代目の経営理念」
～変わらないもの・変わっていくもの～

互光商事㈱
代表取締役　玉川　康介　氏

創業76年 地域の安全を守る

今年創業76年目を迎える互光商事㈱。1947年、玉川氏の祖父の坂本金吾氏が「地域の皆さんの生命と財産を守りたい」という精神のもと盛岡市肴町に消防防災業として創設したのが始まりでした。

主な事業として、消防車輌、消防ポンプの販売、消防防災用品販売、消防設備工事、保守点検業務を担っています。1993年に矢巾町の流通センターに本社を新築移転し、営業所も盛岡、宮古、二戸と県内幅広く業務を行っています。

扱っている商品の特徴として、消防用の火災現場に着ていく防火服、救急隊員の救急服、レンジャー服、地域の消防団のラッパ隊の制服などいろいろと消防にかかわる服なども扱っています。ここ最近は災害が非常に多いことから非常食、避難所用品、衛生用品、それに加え新しい需要としてここ数年のコロナ感染症関連で各市町村の避難所のコロナ感染対策として、避難場開設時に使用する体育館のパーテーションなども扱っています。

まかせっきりの常務時代

玉川氏は大学卒業後、大手自動車会社の営業を経て会社を継ごうと、2003年に常務取締役として入社しました。しかし、当時は自分の担当エリア営業だけに集中し、その他は社長(玉川氏の父親)にすべてまかせっきりの状態でした。その頃の会社の意思決定は見積金額の100円単位まで、最終的に社長が決定しているいわゆるトップダウンの経営。また、いつ継承するかなどについてなども特に相談したこともありませんでした。「自分はこのままでいいのだろうか?社員の皆はどう思って毎日働いているんだろうか?」と疑問に思い、本格的に経営の勉強をしようと第9期経営指針を創る会を受講しました。

自社の強み弱みをじっくり考える日々

受講の中で自社の強み弱みについて考える時間がありました。自分だけでなく社員全員に聞いてみました。すると「何事も社長決裁がなければ動けない」「役職はあるが肩書だけのように感じる」「社内のコミュニケーション不足」など普段自分では気がつかない内容の回答がありました。「社員は本当によく会社のことを見ているし、会社について色々と考えてくれているんだな」ということに気が付きました。しかし、経営指針として形にはしたものの、社長もまだまだ引退する気持ちも無く結局、会社の方向性について面と向かって話もしないまま、2014年社長に就任しました。その後も現状維持の日常を送っていました。

衝撃的な出来事を経てこれまで支えてくれた社員に感謝

ところが、2017年の3月人生を変える衝撃的な出来事がおこります。それは不慮の事故で突然会長が他界してしまいました。あまりの突然の出来事に動揺し、当時の社員は会長の代に入社している社員が殆どだったので「その人達はそのままこの会社に残ってくれるんだろうか?」という不安がありましたが、ありがたいことに辞めた社員は一人もなく、逆に力になり、改めてこれまで支えていただいた社員全員に心から感謝の気持ちでいっぱいでした。

ここからが本当の意味での事業承継

その後自分なりにどんな会社にしたいかを考えました。理念を中心として、社員や一人ひとりが自分と家族の幸せを追求し、そしてその結果一人ひとりが自分で考え行動する会社にしていこうと考えま

した。そのため社内体制も変え、役職に応じた責任と役割を分担、それぞれの部門の責任者に部門のことは決めてもらい、何よりも若手にも決定権のある仕事を任せるようにしました。社員から結論に至るまでの過程を大事にじっくり聞き、担当部署が決めたことに対して、トップは覆さないというスタンスに変えていきました。また社員が働きやすい環境のために、法令遵守の見直し、社内会議、打ち合わせのペーパレス化社内情報システムのネットワーク化、社内書類の簡素化・削減などもしていきました。その中で、変えなかったものがありました。それは会長が社長時代から取組んでいた紙による手書きの日報提出です。但し、複写形式から直接記入、日報を業務にも活用できるよう、用紙にメモ書き等を記載してもOKと簡素化しました。これは、日報提出の際に社員一人ひとりの顔を見ることで、声をかけコミュニケーションを図る重要なものだからです。

消防に携わる人たちの期待受け念願の消防自動車を作る

消防団が使用する車両は、概ね20年に一度新しい車両に代替します。新しく変える時、消防団の皆さんは自分の車の納車のように楽しみに待っていただいています。だからこそがっかりさせてはいけないという思いが常にありました。それまでは中型と小さい消防車両については2社外注先にお願いしていましたが、より使用するお客様のニーズに合った完成度の高い消防車両を作りたいという思いから、2022年11月から互光商事の一部門としてG/A(ジーアンドエー)田尻工場という車両艤装工場を宮城県大崎市に操業開始しました。

消防自動車仕様書に基づき、基本的には大きく変えることは出来ないのですが、使う人たちは地域ごとに環境がそれぞれ異なります。街中、山が近い、川や海が近いなどさまざまです。それによって必要な機材も変わり、使いやすさも変わります。そのニーズを考え、それぞれの地域にあった使いやすいものを提供することで、地域社会の安全に貢献できるのではないか。本当に地域や、お客様のためを考え、新しい取り組みだと思いました。

すべてが揃い決断をするのが経営者

しかし、消防自動車を作る決意をしてもそれを製作する社員はどうするのかと思っていた矢先、仙台にある系列会社の営業社員から「社長、自動車づくりに思いのある人がいるのでぜひその人たちの話を聞いてやってください」と熱心にオファーを受け、まず話を聞いてみることにしました。結果、その人たちの熱意や思いを受け意気投合し採用することになりました。

新工場の立ち上げに向けて打ち合わせを重ねながら果たして1台作るのに、どのくらいの時間、金額、人件費、固定費が必要か。そして何台目から黒字になるのか、4名の社員だったら何台作ることができるかなどを打ち合わせしながら進めていきました。またちょうどその時期に取引先金融機関から申請可能な補助金のお話を頂いたことも大きな力になりました。「こんなに条件が揃っているのに、チャレンジしないのは自分の決断力不足や怠慢でしかないと考え、しかも自分は経営指針を創る時にいつかは自社でメーカーになり作りたいというビジョンがあったはず」そうであればチャンス、やるしかないと決め着手することにしました。

感無量の1号車、2号車を完成納車！

その後工場用に建物を取得しました。過去は金物屋の倉庫でそんなに立派なものではありませんでしたが取得し、立地、働く社員の確保とすべて条件が整いスタートしました。最初は建物の改装と車の製作を同時並行で進めていたので、本当にできるのかと不

安なこともたくさんありましたが、何とか無事に1号車、2号車を完成させお客様のところに納車することができました。この間色々な方に協力や理解をいただくと同時に、何よりもこの仕事が好きで働きがいを持ち、それぞれの得意分野を存分にいかして取り組んでくれた社員には本当感謝しています。これは、関わってくれたたくさんの人の支えなしでは実現できなかったと思います。

先代が残してくれた理念をこれからも引き継ぐ

この新しい事業を実現できたのは祖父や父が残してくれた「防災事業を通じ広く地域社会の安全に貢献することを目指します」この創業の思いがあったからだと思います。これからもしっかりとそれを守っていきたいと思います。そして、その中で時代が変われば、お客様のニーズ、併せて社員のニーズも変わっていきます。それを時代に即しアレンジしながら変える。新しい取組みも、働く社員の皆と出会うきっかけや機会がなければ、今頃は新事業もありませんでした。これからも、理念と目的を大切にし、地域に必要とされる会社として大きく成長していきたいと思います。

経営理念

防災事業を通じ広く地域社会の安全に貢献する事を目指します。

正しい商売を心掛け、適正利潤の追求と顧客のニーズに即応する事を目指します。

会社の発展により社員の幸せと、すべての協力者との相互繁栄を目指します。

会社概要

互光商事株式会社
創　　業：1947年（昭和22年）11月
資 本 金：2,000万円
社 員 数：35名（営業所　関連会社含む）
業務内容：消防防災用品販売　消防設備工事
　　　　　消防設備保守点検業務　不動産管理
　　　　　消防自動車製造
https://www.goko-shoji.co.jp/

支部・委員会通信

盛岡支部

7月18日（火）盛岡支部7月例会が、アイーナで行われました。

報告に立っていただいた、㈱エムデイワンまごころみるく 代表取締役 下村善勝氏より「共に学び共に育つ社風づくり」をテーマにお話しいただきました。

兵庫の明石で生まれ育った下村氏は、大手ゼネコンに入社。子育てをきっかけに奥さんの故郷、秋田の実家の牛乳の宅配業を手伝うことになり、その後盛岡にも㈱エムデイワンまごころみるくを立ち上げました。

「どこまで頑張ればいいの」社内は崩壊寸前

同友会に入会し7年目になります。

同友会と出会う前は、「自分は批判を言うが責任を持たない」「責任は社長（現会長）」「パートは自分に合うかどうかを基準に採用」など今日と明日のことだけを考えていました。当時は「自分が思い描くレベルは、自分にしかできない」と思っていたので、社員に任せるのではなく自分でやっていました。社員を信用していませんでした。それでも店は伸びていたので、足元を見ることもしていませんでした。こういう状況の中、社員からは「どこまで頑張ればいいのか」「社長の言っていることが分からない」「社長のために働くのはもう限界」と言われ社内はバラバラで崩壊寸前でした。

「学び方を学ぶ」謙虚さがなかった

ある時、同友会の例会に参加し、報告者の話を聞いた時に「こんな会社になりたい」と素直に思い入会しました。そして第13期経営指針を創る会を受講します。そこで気づかされたのが、今まではワンマンで行って来たが、「もう一人ではどうにもならない」と思いました。そこから同友会の活動や全国行事、欧州視察など、ありとあらゆる行事に参加しました。そして、社内で経営指針を発表しますが、うまく行かず社員とぶつかります。「都合の良いところだけを吸収し学び方を学ぶ謙虚さがありませんでした」と話す下村氏。そこからまた社員と向き合い一つひとつ丁寧に時間をかけて取り組むことで、自分自身そして社員にも少しずつ変化が現れるようになりました。今では社員と未来の話をできるようになった下村氏の報告でした。

岩手リアス支部

7月20日（木）、岩手リアス支部7月例会が住田町の「ケラッセ」で行われました。

テーマは「住田は俺に任せろ！」～なぜ住田に、古民家をいかしたにぎわい拠点をつくったのか～のテーマで一般社団法人・SUMICA 代表 村上健也氏（㈲村健塗装 代表取締役）よりご報告いただきました。

若者が戻る場所を常に意識して

（一社）SUMICAは、住田町世田米の住民交流拠点施設・まち家世田米駅を運営しています。明治後期建設の住宅の部材をできる限り当時のまま残したレストランやコミュニティカフェ、交流スペースなどを配置、小さな子どもたちから高齢者まで幅広い世代の住民が訪れ、町のにぎわいの拠点として活用されています。その町で塗装業を営む村上氏は、気仙ロックフェスティバルなどを通し「若者が戻る場所」を常に意識して取り組んで来ました。

住む人が本当に住みたい町、「住田町」を

「住む人が本当に住みたい

町、人を呼び込む町へしていきたい」と語る村上氏。「これからも、自分たちの街を誇れる場所にするためにたくさんの人を巻き込み地域を創っていきたい。ここにいるからこそ、できることがある。地方に埋もれていることはたくさんあるので、それを大事にしてこれからも地域づくりに邁進していきたい。」と熱き思いをご報告いただきました。

村上氏の報告を聞いた後、参加者全員で懇親会が開催され、久しぶりに住田町での開催となりましたが、大船渡や遠野からも会員が参加され、皆楽しい語らいのひと時となりました。

県北支部

7月20日（木）滝沢ふるさと交流館で県北支部7月例会が行われました。

「日本一の黒子企業をめざして」をテーマに、㈱オノデラサイン　代表取締役　小野寺久治氏にお話をしていただきました。

地元の高校を卒業後、就職しようと採用試験を受けますが、失敗し就職するか進学するか迷い父親に相談します。その時に「俺を納得させる理由がなければ進学はさせない。」と言われ更に迷っていたところ「世の中に自分がやりたいことがなければ自分でやってみたらどうだ。」の言葉が起業するきっかけになります。

今があるのは、関わってくれた人たちがいたから

幼少期、父親がバイクのチームを持っていて毎週バイクのレースに連れて行ってくれました。

家に帰って来ると、ステッカーを手で切りヘルメットに貼っている姿がずっと記憶に残っていました。学生時代から物を作ることが好きだったこともあり「これを生業にしよう」と、1999年車にステッカーを張ることを最初の仕事としたのがオノデラサインの始まりです。

当初は、パソコン1台、カッティングプロッター1台でのスタートでした。まだ18歳、お金もなければ打つ策もない状況でした。そこでまずは地元の方々に「何か仕事があったら下さい。」と声をかけて回ることから始めます。結果、月の売上が100万、最初の1年で1、200万の売上になりました。これには、「今まで関わっていただいた方々の紹介があったからできたことです。」と話す小野寺氏。その中には今でもお付き合いをいただいている会社が数社あります。

どこにも負けない技術が自社にはある

小さな事務所から一人で始めた事業も、2004年昇華転写を導入したことで事業が大きく変わり、順調に仕事も増え2011年4月に法人化。現在社員が64名になりました。「どこにも負けない社員と技術のノウハウが自社にはあります。」と話す小野寺氏。3ケ所ある工場には世界最長の平型プレス機、国内最大規模61台の転写プリンターなどがあり、オリジナルの機械・布地・紙もつくっています。「お客様を待たせない。」印刷から転写、加工、梱包、発送まで一貫生産を行っています。「他社ができないことを提案しサポートをしたい。」決して表には出ませんが、自身も黒子に徹し、飛び込み営業をし続けてきました。結果、コロナ禍でも増収・増益となり、国際的スポーツの祭典の仕事も受託。今後は「地球環境も考えながら動きを止めず進んで行きたい。」と先を見据えて取り組んでいる小野寺氏の報告でした。

県央支部

6月21日（水）県央支部6月例会が矢巾町公民館で開催されました。

報告者は信幸プロテック㈱代表取締役　村松守氏より「環境整備はパフォーマンス発揮の基になる」～人にやさしい会社の仕組みづくり～のテーマでご報告いただきました。

新卒は自社独自の採用方法

2015年に創業者の現会長から事業承継し、妻の専務と共に社員一人ひとりが育ち、活躍できる会社を目指そうと日々実践しました。その間新卒採用もしながら今では40数名を越える社員数に会社が発展しました。しかし数年採用できない時期もありました。そのため採用力をつけるために就職サイトや企業説明会は使わずに独自で、求人票の見直し、採用のためホームページで充実、動画作成、そして何よりも学校とのパイプを強くすることを実践しました。その結果ここ数年は新卒を採用できるようになり、大きく会社のイメージを変えることができました。

社員が主体的になると大きく成長する

しかし、40名以上の社員になると色々と課題がありました。例えば「事務処理のために残業が多くなる」という課題を経営管理部門がチームを組み改革のひとつとしてIT活用を試みました。部門のスタッフが主体になり「なぜ?」「どうなったか」を深掘りしていくことで、自分たちのモチベーションのアップになりチームワークが強化されます。社員が中心になると「自分たちの活動が会社の働き方を変えているんだ！」という強い自信につながり大きく成長していきました。

困っているから何をするか

「働き方改革」は問題が起こるから対策をするということからがスタートでした。困っているから何をするか。この取り組みから①自分たちがしっかり考える時間があってこそ自分ごとになること。②対策するべき課題を数字でつかみ、むしろIT導入はそのあとでもいい。③一律のルールを押し付けず、部門や業務ごとにとるべき対策を考えていくこと。この3つが大きな学びでした。

社員ひとり一人のための職場環境整備

わが社は経営指針の発表会で毎年社員が個別目標を発表します。社員たちはその目標に向かって毎年バージョンアップしながら仕事をしています。その社員一人ひとりの目標達成や成長のためにも職場環境をつくることは当たり前のことです。そして最終的に理念の中の「自己の夢の実現に真摯に取り組む」に繋がるという思いでこれからも、社員、お客様、地域と共に歩んでいきたいと思います。

座長のまとめ

会長から引きついだ経営指針をもとにあるブレない軸を感じました。「働き方改革」は社員のひとりひとりの成長のため職場環境をつくるということです。しかし最初から社員が前のめりに取り組み始めたのではない、それをその気にさせるために対策すべき課題を数値化、そして自分たちの考える時間をきちんとつくるなど具体的な行動を一つ、ひとつ積み重ねることで社員に心の余裕が生まれ必要とされる会社になっていったのだと思います。今回の報告から改めて理念の大事さ、課題を明確にしてひとつひとつ解決に向けて人にやさしい会社を創っていきたいと強く感じました。

（杜陵テクノ㈱　代表取締役　川村武司氏）

政策委員会

公正取引委員会事務総局・東北事務所との初の懇談会開催

　岩手同友会と公正取引委員会事務総局・東北事務所との初めての懇談会が、7月4日（火）カガヤ肴町ビル会議室で開催されました。当日は公正取引委員会事務総局・東北事務所から所長の白石文男氏、総務課の中山竜希氏に会場においでいただき、オンラインも含め24名が参加し、活発な意見交換がされました。

　はじめに岩手同友会の吉田ひさ子代表理事から「公正取引委員会と聞くと、普段接していない私たちにとって、少し身が引き締まるような気持ちになりますが、今日はむしろ中小企業にとって必要な情報をご提供いただける時間、また現場の声から率直な意見交換ができる場と捉え、一緒に学ばせていただく場にしたいと考えています」と挨拶、またそれを受けて公正取引委員会の白石所長からは、「どうしても難しい話がされるのでは、という印象があるかもしれませんが、今日をスタートに今後もこうした意見交換の場を重ねていきたいと思います。まずは私たちが日常どんなことに取り組んでいるか、ご紹介したいと思います」と話し、懇談会が始まりました。

印象が大きく変化した一日

　公正取引委員会の概要や、独占禁止法について、中小企業に不当に不利益を与える行為の取締り強化などについてなど、説明を聞くうちに、中小企業の日常に近い内容のご紹介が多いことに気づきます。その後の意見交換の場では様々な声が出されました。

　「むしろ真面目に頑張っている中小企業を守ってくれる機関であることがわかった」「『公取』と聞くとドラマの一場面を思い出すが、丁寧に声を聴いて公正に向き合ってくれる場だと言うことが理解できた」など、これまでの持っていた印象が大きく変化した懇談会となりました。

　今後も継続してこうした情報交換の場を持っていくことの意義を確認し、初めての懇談会を終了しました。

矢巾町と岩手同友会共催

「社員〝共育〟塾」初開催

～中小企業振興基本条例の具現化へ～

経営者も社員も、町の職員も一緒に「生きるめあて」を考える

　6月15日（木）、矢巾町と岩手同友会との初めての共催「社員〝共育〟塾」が矢巾町役場会議室で開催されました。

　昨年の矢巾町中小企業振興基本条例制定後、地元企業と矢巾町、金融機関、教育機関を交えた円卓会議を創設。条例も含め3年半かけて矢巾町中小企業振興基本計画を作成しました。その中でも町の全事業所へのアンケートを実施し、どの企業も「社員教育」について課題を持っており、今後と仕組みを強化していきたいとの回答が寄せられました。

　そこで6月から開催する岩手同友会の第11期社員共育塾の開催に合わせ、矢巾町サテライトを設けることを決定。矢巾町と共催で紫波矢巾管内の企業や金融機関、そして矢

巾町の若手職員にも門戸を広げ、経営者も社員も、町の職員も一緒になって「自分の人生や生きがい、働きがいについて考え方を確立すること」をめざし、自らの「いきるめあて」について深く考え学び合う、共育塾を行うことになりました。

初めて「何のために働くのか」を考えた

第1講では㈱高田自動車学校 取締役会長の田村満氏から、「私たちは何のために働くのか」をテーマに問題提起をいただき24名の対面参加、12名のオンライン参加の合計36名の参加でハイブリット開催でグループ討論も行われました。討論の発表では「日頃何のためにと、考えたことはなかった。初めて深く考える機会だった。」「他社の方々と久しぶりに膝を交えて話せることがドキドキした。やっぱり対面がいい」などが話され、2時間半熱気の中であっという間の時間でした。

中小企業振興資本計画円卓会議、会長の村松幸雄氏（信幸プロテック㈱取締役会長、矢巾町商工会専務理事）は「こうして初めて、経営者と社員、そして町の職員が一緒に学べたことは、本当に貴重で歴史的な一日になったのではないかと思います。実は中小企業振興基本計画の４つの柱の最初に『教育』があります。条例をもとに、世代や立場を越えて共に成長できる場が生まれたことに、心から感謝したい。」と御礼が述べられました。

町との共催でできることに、感謝と誇り

またまとめの挨拶では、社員共育委員会の下村善勝氏（㈱エンデイワンまごころみるく代表取締役）から、「こうした学び合いの機会が町との共催でできることに、社員共育委員会として誇りに思います。第2講では矢巾町の杜陵テクノ㈱社長の川村武司さん、社員の藤島莉奈さんのお二人に『共に学び、共に育ち合う会社づくりを考える』をテーマにお話しいただきます。今日の感動を大切に、次は更により深く自分の人生を見つめ、生きがい働きがいを実感できる豊かな時間を一緒につくっていきましょう。」と話し会場は高揚した雰囲気になりました。最後に全員で記念写真を撮影し、第1講の終了となりました。

共同求人委員会 2023 盛岡管内高校訪問

共同求人委員会は6月28日（水）、6月29日（木）の2日間盛岡管内の高校を訪問、それぞれ就職担当の先生と意見交換をしました。

訪問高校は、盛岡工業高等学校、盛岡南高等学校、盛岡商業高等学校、盛岡中央高等学校、盛岡スコーレ高等学校、紫波総合高等学校（28日）、盛岡農業高等学校、盛岡市立高等学校、盛岡大学付属高等学校、岩手女子高等学校、江南義塾高等学校（29日）と計11校を2日間に渡り訪問しました。

就職は県内希望者が大半

訪問した各学校の就職担当の先生からの話では、有効求人倍率も高止まりの中、順調に求人票も多く、特に工業系、商業系への高校には大企業からの募集が殺到しています。求人票では初任給が大きく上昇、週休2日は当たり前、特に休日に関しては大きく重要視されています。その中で就職希望の生徒の3分の2は盛岡管内、県内に希望しています。その反面、昨年、一昨年のコロナの中では就職希望者の殆どが地元を離れることを敬遠していましたが、今年は、落ち着いてきたこともあり、県外に希望する生徒も出初めています。いずれも、高校生は自分の希望に即した仕事、または企業に就職することが可能な状況です。

2年生から準備を積み重ね本番に備える

盛岡市立高校の進路指導課就職主任の石倉節子先生からは「当校の就職に関しては47名が就職希望でうち32名が民間、15名が公務員希望です。大体の生徒は県内希望で、しかも自宅から通いたいという希望をもっています。ここ2年間コロナの影響ですべての学校行事が中止、またクラブ活動も自粛されるということもあり、コミュニケーション不足が見られ、それが就職面接にマイナスになるのではという心配もしています。その中でも2年生から就職面接を相談員の方を中心に個別に定期的に開催し、就職に向けて準備し備えていますので、ぜひ積極的に地元の企業の皆様の求人をよろしくお願いします。」とお話しされました。

「実は生徒の持ち味を探せる企業を探していた」

どの高校も以前にもまして“売り手”市場のため、切羽詰まった雰囲気はなく余裕を感じました。その反面、就職担当の先生方も求人票はたくさんあっても、経営者と接点をもつ機会がなく、業務多忙のため気持ちはあっても優先順位が変わります。結果、「知っている企業」「給与、休日」など地元の企業の特長を知ることもなく、生徒の希望に対応している現状でした。今回の訪問先で先生の「困った」「どうしたらいいか」を聞いていくと「実はある生徒の持ち味を出せる企業を探していた。明日連絡をとって企業訪問に行かせていいですか」という場面もありました。

今回のことから、教育者としての先生方を信じ、共に学び合う同友会の共育理念を伝える場が必要だと感じました。共同求人委員会では就職の落ち着いた時期に、先生向けの合同企業説明会と共育懇談会を開催しながら高校の先生方に伝えていく予定です。

いま、地区が断然面白い！
各支部地区活動通信

盛岡支部第1地区会

ベアレンビール・マイクロブルワリー訪問
～まず顔を合わせ交流を！

6月19日（月）菜園マイクロブルワリーで盛岡支部　第1地区会が行われました。

今年度最初の地区会は、まずはお互いを知ること、そして顔合わせをすることからのスタートとして11名が参加。例会でなかなか顔をあわせる機会が少ない会員も参加し、会場はなごやかな雰囲気の中で現状の話などをしながら交流する時間になりました。

盛岡支部第2地区会

「和かな」で特別の時間を共有
～再会に会話弾む

6月3日（土）盛岡支部第2地区会が「和かな」で15名が集いランチ会を行いました。

第2地区では、会員訪問ということで第1回目は「和かな」のお店にお邪魔し、社長も参加しての昼食会となりました。当日は、支部・地区を越えての参加者や「社長が都合悪くなったので私がきました」という社員の参加もあり、久しぶりの再会に「元気だった」「今、こんなこともしているよ」と会話が弾み箸を止める場面も見られるなど、普段とは違った環境での会員訪問となりました。

盛岡支部第3地区会

㈱ノーザンシステムサービス
～毎年新卒採用で新事業開拓

盛岡支部3地区会では今年度、盛岡支部会員さんの企業を訪問してその企業の社員さんの成長・活躍を取材報告する地区会を開催します。第一回目の地区会は6月19日(月)㈱ノーザンシステムサービス（代表取締役　川村尚司さん）を訪問して来ました。

毎年新卒を継続して採用

2001年4月に代表の川村氏が創業したソフトウェアの受託開発と運用保守を行っているIT会社で、現在社員数は25名。また2021年3名、2022年3名、2023年1名の新卒採用を行っており、来年度は7名を募集している若手社員が多い企業です。

きめ細やかな研修計画が次の世代を育てる

今年からフルリモート勤務になった業務管理部・採用担当の立澤桃花（入社2年目）さんから新入社員研修について説明を頂きました。ノーザンシステムサービスの新入社員研修は同友会の研修後に2日間の一般研修をした後、3週間の開発スキル研修が行われ、この期間に仕事に関する基礎的なスキルを学びます。その後インターン研修として3つある部門に一週間ずつ研修をうけ、最後に再び開発スキル研修を行っています。細かい毎日の研修内容も説明頂きとてもきめ細やかで、手厚い新入社員研修が行われ社員さんが成長するステージが用意されていました。

また、今年入社した佐藤琉希さんは、新入社員研修を5月末で終え、6月からシステム事業部に配属されて仕事をされています。「これからは自分がプロジェクトを引っ張っていける人材になる事が今後の目標です」と目を輝かせて話してくれました。

盛岡支部 第4地区会

地域の健康サポートを担う
～人生を楽しく歩む願いをこめて

6月27日（火）盛岡支部第4地区会で㈱共栄薬品の訪問例会を行いました。

共栄薬品は「置き薬」の配置事業部、カーブス事業部、ゴルフパートナー事業部とお客様に喜ばれる新しい商品やサービスを提供しています。

今回は高橋取締役にカーブスとゴルフ店舗の見学と説明をしていただいた後、共栄薬品に戻りお話をしていただきました。１９８０年置き薬からスタートし、4箇所の営業所を展開していきました。その後、薬や健康食品等を販売する中で健康サポートの必要性を感じカーブスの運営。そして人生を楽しくより豊かに歩んで欲しいとの想いで、ゴルフショップを展開してきました。高橋氏からは事業を拡大してきた経緯やご自身のことも含め報告していただき質問にも丁寧に対応してくれました。

岩手リアス支部 大船渡地区会

肩肘張らず何でも語ろう！

6月15日（木）大船渡市内の「高帆」に於いて大船渡地区会が開催されました。

当日は14名が参加。「久しぶり。元気だった?」や「最近はどう?」いう声も聞かれスタートしました。地区会長の木楽創研㈱の熊谷秀明氏は「この地区会は気軽に何でも語れる肩肘張らない会をめざしています。これからも学び語り合いましょう」と挨拶され和気あいあいと楽しく懇親会が開催されました。

県北支部 岩手山麓地区会

大行列大人気の自家製アイス店「松ぼっくり」を訪問！

県北支部岩手山麓地区では、6月15日（木）㈱松原農場の松原宏樹氏にお話を伺いに企業訪問を致しました。

2頭のホルスタインからのスタート

雫石にある松原農場は、父親の久美氏が１９６８年に2頭のホルスタインを入手し創業したのが始まりです。その後奥様が自家製アイス作りをはじめ、２００１年に「松ぼっくり」を開業。２００４年には「松ぼっくり」の隣に「産直松の実」を開店。現在産直を担っているのが宏樹氏です。家族で役割分担をしながら行ってきましたが、２０２１年に法人化し2代目として長男が経営を引き継ぎ、宏樹氏が取締役に就任しました。

自社の経営課題を家族とじっくり向き合う

今まで自社の経営課題についてじっくり話し合う場面もなくやってきましたが「家族での話し合いの場をどうつくるか」が自分の課題でもありました。それを実現するために家族に相談しますがなかなか進展せずいたことが、「ようやくその時間をつくることができました。」と訪問したことで新たな動きを聞くことが出来た地区会でした。

岩手リアス支部 釜石宮古地区

6月28日（水）イーストピア宮古に於いて、釜石宮古地区例会が開催されました。テーマは「私が現場にいなくとも良くなった理由」～経営指針の成文化から実践、コツコツと積み上げられた5年間～。報告者は農事組合法人宮守川上流生産組合　副組合長　桶田陽子氏よりご報告いただきました。

「自分がいなければ」から「いなくても」に変化

「以前はなんでも自分がいなければ」と思っていました。でもそれは、一緒に働いている社員の意欲をむしろ抑えていたことに気づいたとき、取り組みのすべてが変化しました。経営指針を創る会（現経営指針実践塾）終了後、社員共育委員会で学んだことを社内で丁寧に実践を積み上げることで、社員一人ひとりが互いに力を発揮する環境へと変わり始めました。

社員一人ひとりが主になり自ら実践へ

新しい取り組みとしては、丁寧にエクセルシートを作成し、社員が自分で計画作成に着手しました。最初は敬遠していた社員も今では、自ら作成できるようになり、全員が作成できるようになりました。「ここまでくるのに約5年間。長かったですが、経営者が展望を掲げ、決してあきらめずに実践する覚悟で持ち、進めたのは、経営指針があったからだと思います。」これからも社員の話に耳を傾け学んだことをしっかり実践し地域に必要とされつづけるように頑張っていきたいと報告されました。

県南支部・県央支部 紫波矢巾地区 共催訪問例会

7月18日（火）県南支部・県央支部紫波矢巾地区共催訪問例会が開催されました。訪問した企業は東北酸素㈱紫波営業所、紫波環境㈱の2社を訪問しました。今回は東北酸素㈱紫波営業所の藤原徹氏のご報告をご紹介します。

藤原氏は求人担当として同友会に参加する中で、新卒採用すべきか中途社員か悩みながら悶々と考えている日々でした。そんななか、SDGsを自分たちで取り組んでよい事になり、真剣に向き合いゴミの17分別を開始します。業績以外で褒められることに奮起。全力で向き合い頑張りました。

経営指針の成文化で社内が大きく変化

2017年7月に社長が経営指針を成文化。今後営業所でも取組んでいくことが決まり、「さあこれからだ！」という矢先に新卒採用した社員が退職します。「何故なんだろう？何が悪いのか…」そこで一緒に働く社員の声を聞くこと、まずは皆が困っていることを書き出すことから始めました。そして最終的に一緒に作成したスローガンは「休日明けに行きたくなる会社にしよう」「言いたいことが気にせず言える会社にしよう」というスローガンでした。そしてさらにテーマは「傾聴」。すると若手の社員をはじめ社員の表情が変わってきました。

来期はこうしてやろうぜ！

「経営指針を成文化していくと、指針書の範囲内なら自分たちも積極的にやっていいんだ！むしろ自分たちがやる。という能動的な責任感と来期はこうしてやろうぜ！という意欲も出ました。」と胸を張って話す藤原氏。藤原氏の報告から経営指針書をもとに幹部社員として社員全員に耳を傾け、問題を課題にそして解決に向け丁寧に取り組み、実践している姿から、参加者全員から「素晴らしい。こんなにしっかりと社員が自ら取り組む姿に感動した」という感想も多く寄せられ、経営者一人ひとりの心に響く報告でした。

素心知困

森林面積が町の面積の九割を占める住田町。SDGsの17のゴールの一つ「森の豊かさを守る」取り組みでもある、適正に管理されたFSC森林認証の森として、全国からも注目され続けています。▼住田住宅産業は、その住田の森で生まれた間伐材を生かし、木が身近にある暮らしを、気仙地域に新たな提案をしています。陸前高田市のおかずや和笑輪の店先に生まれたテラス。青空に映えて木の命が蘇ります。▼30年もの年輪を重ねた丸太を縦に引き、まるごと一本使ってテーブルに仕上げます。見とれるほどに美しいフォルム、圧倒的な存在感を醸し出しながらも、暮らしの空間に自然に寄り添ってきます。▼先頃終えた第17期経営指針実践塾を受講した中野社長。社員と一緒になって全国に発信したい住田の木の心が今新たに、芽吹こうとしています。

オリジナルラベルワインを作成します
周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等
自園自醸ワイン紫波 SHIWA 岩手県紫波町産ぶどう100%
社名ロゴ写真OK　包装、のし無料　12本以上作成料無料
お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波醸造元 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

めだか
有限会社いわてにっかコミュニティ企画
〔事業内容〕デイサービス／生活介護／訪問介護／住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス／相談支援事業所／訪問看護／就労継続支援Ｂ型

節電は経費削減につながります！
オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。
長寿命　消費電力カット　CO2削減　発熱が少ない
現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えした場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。
株式会社平金商店　TEL:019-624-2121

物を大切にし環境にやさしくありたい　使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ Doki-Doki　2nd STREET
(株)トータル・リユース
代表取締役社長　伊瀬 ise　幸郎 yukiro
本社　〒026-0041　岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL：0193-21-2126　FAX：0193-21-2127
携帯　090-8780-3296
E-mail：trise@arion.ocn.ne.jp

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ Southern Iwate Driving School Group
陸前高田ドライビングスクール RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL
三陸技能講習センター Sanriku skill training center
平泉ドライビングスクール HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL
遠野ドライビングスクール TOHNO DRIVING SCHOOL
携帯サイトはこちら http://www.si-dsg.com/mobile

人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。
浄化槽　住宅設備のアフターサービス　水まわりのリフォーム　北上営業所
IWATE IKKA SERVICE
岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

書籍紹介！
「中小輝業への道」
～就業規則と「働く環境づくり」で成長する～
中小企業家同友会全国協議会　監修
働く環境づくりプロジェクトチーム著
A5判　約280頁
定価2,750円（本体価格2,500円＋税）
☆お求めは岩手同友会事務局まで！

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。
浄化槽保守点検　BDFの製造・販売　食用油　BDF燃料　植物　CO₂
紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656　FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/
し尿・浄化槽汚泥収集運搬

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご活用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙または e.duyu をご利用下さい。

DOYU IWATE 同友いわて
2023 Vol.171
2023年9月1日発行
発行／岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-626-4477　FAX019-626-1644
Mail：info@iwate.doyu.jp